

仙台司教区

教区事務所だより



(第 13 号)
昭和 52 年 12 月 15 日

『沈黙』の秘義

主の降誕祭

おめでとうございます。

聖書におけるキリスト降誕の記事に、二つの招待があると思います。一つは、羊飼いが天使から主の誕生を知らされたこと、他は、星の導きで三人の博士に知らされたことでしょう。

この両者は、神から救い主に会うよう招かれ、それに応じたのであります。王の婚宴に招待された人のたとえでは、その招待に何やかやと理由を作ったことわった人たちのことがありました。招きに応じるためには、必要な心構えがあると思いません。

少年サムエルは大祭司エリから、主に呼ばれた時に応える仕方を教わりました。「呼ばれたら、『主よ、お話しください、あなたのしもべがきいておりますから』とお答えしなさい」と。

聞くために必要な風土は、沈黙といることでもあります。むだなおしゃべりをしないと、言いたいことをただ我慢するというのではありません。マルタとマリアの姉妹の態度について、

「必要なことは少ない、いやむしろただ一つである。マリアは、自分から奪われることのない、よりよいほうを選んだ」と主が言われた状態とか、羊飼いが主を礼拝に来たとき、「マリアは注意深くそのことを心にとどめて考えつづけた」。十二歳の

少年イエズスを見失った出来事においても、「その母は、これらの記憶をみな心におさめておかれた」と記述される聖母の姿の中に、沈黙の神秘を感じる事ができるのではないでしょうか。

現代は、自分たちの手になる機械の騒音の中に埋没し、自分の活動がはっきりした結果を生み出すとき、豊かにされたと思ひ込んでいます。したがって、大自然の静寂の中に、沈黙の中に置かれたとき、落ち着きを失い、不安にかられるのではないのでしょうか。

羊飼いたちや三人の博士たちは、沈黙のうちに、約束された救い主に出会う希望に支えられ、よろこびと平和に満たされたことでしょう。主がこの地上に生まれた時も、人が寝静まった夜でありました。教いの業へ至る受難の中にも、この沈黙の神秘が主役を演じていると思うのです。神の愛に根ざす沈黙の価値に対しての見直しを、心掛けましょう。

(土井文雄)

※※※※※※※※※※※※※※※※

△ 研修会 ▽

第四回仙台司教区幼稚園

会計研修会開催



青森県下の教区名儀幼稚園は、その学校法人予定法人化に伴い、学校法人会計基準に基づいた会計計算書類提出の必要に迫られて、今年正月、繋温泉で幼稚園会計研修会を行った。そして予想以上の成果を収めた。そこで今年度も、来る正月、第四回仙台司教区幼稚園会計研修会の開催が企画されている。

今年度は、複式簿記の原理、一般会計処理の仕方についてはもちろんであるが、特に貸借対照表作成以後の会計処理の仕方について研修が行われる予定である。

この研修会を通して、仙台司教区の幼稚園会計処理能力の向上と共に宗教法人としての幼稚園事業部門の会計の整備統一に役立つことが期待されている。

主催者側は、教会関係者・保育園関係者などで複式簿記の会計の研修に興味をもっていらっしゃる方々の参加も、

歓迎している。

研修会開催要項は次の通り。

日時 昭和53年1月9～13日

(四泊五日)

会場 秋保温泉・ホテル佐勘

講師 木原康弘氏(公認会計士)

持参品 筆記用具、そろばんまたは

計算器具、財産調査表。

参加費 三、〇〇〇円(宿泊、食事、講習料一切を含む)

研修内容 複式簿記の原理

資金収支、消費収支、貸借

対照表について。

帳簿の会計処理の仕方。

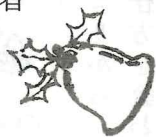
財産調査表、等。

参加希望者は、12月20日までに、教区事務所にて。



“よい知らせ”の

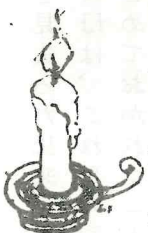
訪問者



イエズスの小さい姉妹の友愛会のシスター3人が、クリスマスのよい知らせを携えて、12月1日、初めて仙台を訪れた。

シスターたちは、市内各所の施設、

病院、教会を訪れ、歌とスライドを通してイエズス・キリスト誕生の喜びを人々に運んだ。人々は、シスターたちの内から溢れる喜びの歌声、生き生きとしている姿を通して、神の愛に触れた。ある人は、胸のあつくなるのをおぼえ、目がしらをおさえる。またある人は、じっと目を閉じて聴きいつている。「どうしてあんなにすばらしく、生き生きしているのだろうか?!」と感嘆の言葉を発する人もいた。そして、「ぜひ来年も来て下さい」との声におくられ、5日間の仙台滞在を終えて離仙した。ちなみに、このシスターたちは、小さい兄弟・イエズスのシャイルを父とし、ナザレトのイエズスのように、黙々と、隠れて、貧しく、骨身を惜しまず働いて、慎ましくなることを。もっぱら、肉体労働をしながら生活なされたナザレトの神なる労働者の、慎ましく隠れた生活を望み、人々の中で、人々と共に生活している。



司教様の日程

(12月8日現在)

12月3～4日 無原罪聖母会(郡山)

研修会

5日 グアダルペ会月例会

8日 宗教代表者会議

10日 スペルマン病院クリスマス・パーティー

11日 堅信式(石巻教会)

12日 邦人司祭月例会

17日 市民クリスマス(集い)

18日 小百合幼稚園25周年記念式典

21日 聖ドミニコ学院クリスマス

23日 スペルマン病院理事会

25日 降誕祭ミサ(午前零時・於カテドラル)

27日 東北カトリック学生の集い

1月1日 元旦ミサ 於カテドラル

7日 聖ライムンドの祝日

(佐藤司教修道名の祝日)

8日 佐藤司教修道名祝賀ミサ

(於カテドラル)

16～18日 仙台教区カテキスタ

会研修会・総会
19日 社会福祉法人理事会

二十周年を迎えた

五戸カトリック幼稚園

五戸カトリック幼稚園(園長マルセル・ポリケン師)は去る10月26日、幼稚園開設20周年を祝った。

当幼稚園は、キリスト教の精神に基づき、神の愛と人類愛にみたまされた平和な社会の建設と、人類福祉に貢献できる人間を育成するため、幼児に適当な環境を与えてその心身の健全な発達を助長し、将来それぞれの立場に於て立派にその役割を果たし得る社会人となるよう、幼児期に身につけておくべき事柄について基礎教育をほどこすことを目的としている。現在、園児は27名で、園長以下5名の職員に見守られ、成長している。

なお、当日の式典は二部に分かれ、午前の部に園児・父兄・職員が参列し、のち、集まった父兄の余名は、小林有方司教の記念講演「心豊かに生きるには」に聴き入った。午後の

部は、旧職員・町関係者・県南幼稚園長・教会関係者が招待され、父兄有志とともに祝賀会がもたれた。ささやかな集いではあったが、和やかな雰囲気の中に式典・祝賀会を4時30分に終えた。

特筆すべきことは、記念式典の中に共同祈願・聖書朗読等を取り入れて宗教的色彩をあらわしたことが、日ごろそうした雰囲気に触れることのない人々にとって感銘深かったようである。

沿革
昭和33年5月 ケベック外国宣教会
ヴァレ師により開設。
昭和36年4月 県知事認可をうける
昭和40年4月 ケベック外国宣教会より教区司祭団に移管、平田浩師園長就任。
昭和40年8月 園舎一部増改築
昭和47年7月 設置者名義変更、宗
教法人カトリック仙台司教区立となる。

昭和49年4月 鷹鷲達衛師園長就任
昭和52年4月 教区司祭団よりケベック外国宣教会に移管、マルセル・ポリケン師園長就任。現在に至る。

仙台にも

『正義と平和協』 設立

「正義と平和仙台協議会」設立総会が11月27日、元寺小路教会信徒館において、佐藤司教臨席のもとに開催された。これは、みちのく仙台にも協議会設立を、との機運高まる中、6月から設立準備を進め、この日を迎えた。

開会の祈りの後、設立発起人代表による経過報告があった。そして協議会規約案の審議の後、仙台協議会の目的・性格づけ・役員が次のように決まった。

目的 ― 福音に基づく社会に関する教会の教えに従い、社会正義と平和の実現、とくに基本的人権の擁護と促進につとめることによって、キリスト者としての社会的責任を果たしていく。

性格づけ（活動） ― 上記の目的達成のため、①地域住民がかかえている問題と積極的にとりくむ。②教会内外から提起された諸問題を検討

し、適切な活動を行う。③教会内外に正しい情報の伝達と、広報、普及活動を行う。④必要に応じて、教会内外の他団体との連帯・協力を行う。

役員 ― 会長・猪岡近男氏（豊屋町）、副会長・小野英夫氏（一本杉）、事務局長・叶昌弘氏（豊屋町）、指導司祭・フォーレ師（一本杉）。

役員選出ののち、初代会長・猪岡近男氏は、現代社会にキリスト者としての証しをするため、全員が協力し合い、活動を押しすすめていきたいと、その抱負を語った。

また佐藤千敬司教は祝辞の中で、「現在は仙台地区の正義と平和協であるが、これを仙台教区レベルまで発展させていく努力を続けて欲しい。会をつくるのは簡単であるが、実質的な活動を続けていくことは大変なことである。現実起こる問題は地域に密接なものであろうから、仙台地区でのキリスト者としての証しをすることが大切である。待降節第一主日の今日、私たちもメシアの到来を待ち望みながら、正義と平和に満ちた神の国を実現していくために、力を合わせて努力していきたい」

と会員を激励した。最後に、日本カトリック正義と平和協議会担当・相馬信夫司教からの祝電が披露され、地域に根ざした、地味で息の長い活動に、会員一人一人がとりくんでいくことを確認して設立総会を終えた。

人事往来



- ☆ オタワ愛徳修道女会総長（マルセル・ゴーツエ）、副総長（セシル・パラジェ）来仙。10月10～28日。
- ☆ 三好迪師（神言会士）
- ☆ 三教区合同司祭研修会（10月26～28日）の講師として来仙。
- ☆ 押田成人師（ドミニコ会士）
- ☆ 新世界主催黙想会（11月12～13日）のため来仙。
- ☆ ネメシユ師（イエズス会士）
- ☆ 仙台教区修女連院長研修会（11月15～17日）の講師として来仙。
- ☆ バルパロ師（サレジオ会士）
- ☆ 岩手県南・宮城県北合同教会主催「聖書週間」のつどいのため（11月

20日)、一関教会に。

☆ オタワ愛徳修道女会地区長・院長交替(11月14日付で)。地区長・

東仙台院長にシスター・リーズ・ラミ。

八木山院長にシスター・モニック・ブツ

シエ。シスター・マルガリタ・ルメイ

(東仙台前院長)はカナダ本部へ。

☆ イエズスの小さい姉妹の友愛会

のシスター3人、クリスマス・メッ

セージのため来仙。12月1~5日。

☆ ジェンペルリ・マルコ師(ペト

レ・ム会士)。同師は昭和50年来日。

鎌倉で日本語を学び、今年7月から

盛岡四ツ家教会で司牧に携わっている。

◆ 新刊紹介 ◆

ペトロ・ネメシエ著

『キリスト教とは何か』

定価 4000円

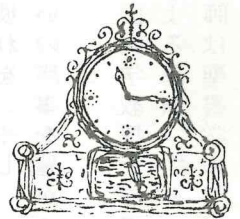
〒 1200円

信徒にとつては、自分の信仰を問いな
おすため、キリスト者でない人にとつて
は、キリスト教を正しく理解するため、
簡単ながら、深くキリスト教の真髄を伝
えるもの。

女子パウロ会発行

話

題



聖書週間 (11月13~20日)

お わ る

日本のカトリック教会は、今年、
初めて聖書週間を実施した。この目
的は、「信仰の最高の基準」であり、
教会に委託された啓示の宝『聖書』
が、人々の心をますます満たし、
また、神のことば(聖書)に対する
尊敬を高めることにある。今年、
「聖書を知ることばをキリストを知る
ことである」をテーマに、聖書に対
する意識を高めることを第一目標と
した。

仙台教区では、聖書週間のために
委員会を構成して何か行事を実施す
る、というまでには至らなかった。
しかし、多くの教会ではミサの中で、
聖書に対する意識の高揚を促す説教
があった。また、二、三の教会・地
区から、多少の行事の報告が教区事

務所にとどいている。

※ 一関教会(小野忠亮師)を会場
に11月20日、聖書週間の集いが、岩
手県南・宮城県北合同主催によつて
実施。聖書訳者バルバロ師(サレジ
オ会士)の講話「聖書に親しむ」、
質疑応答、昼食、聖歌練習、懇談会
の後、共同ミサをもって一日の集い
を終えた。司祭//人、信徒約200人が
集まった。

※ 浪打教会(ラヴォア師)は11月
27日、聖書の日の典礼(11月6日付
カトリック新聞記載)と小さい行事
を持った。聖書に関する作品が聖堂
に展示された。それらの作品は、幼
稚園児や信徒によるもので、はり絵
、 絵画、習字、また聖地の花など。同
時に聖書の販売もなされた。

※ 元寺小路教会(土井文雄師)で
は、「聖書の表題一覧」と、「聖書
週間」の説明パンフレットを印刷し、
ミサにあずかる人全員が持ち帰れる
よう配慮した。また、聖書に関する
書籍の紹介を掲示した。



《青年・姉妹の集い》紹介

「セシリア会」(郡山教会)

過日、「福島県カトリックの集い」の企画・運営の中核となり、郡山教会にセシリア会あり、とその名が福島県下の各教会に知られるようになった青年姉妹会を紹介します。

セシリア会は、ギターでフォーク聖歌をうたい、典礼聖歌の伴奏をするグループとして自然に誕生。メンバー不定。しかし、コアグループとして10人位存在。誰でも参加できる会。

毎週/回、金曜日、午後7時に教会に集う。歌を共にうたい、活動の話し合いをする。

会長・副会長などという名前も規則も存在せず、かた苦しくなく、気負わないグループの雰囲気。活動する場が教会の中にあり、また若者の活動を理解し、育てようとする困りの温かい目もある。

結婚式・ミサ典礼聖歌のくみたて、レクリエーション的な行事の中での企画運営、奉仕的なものへの積極的

な参加。教会典礼への参加を主な活動としている。

集まっている若者は、高校生・大学生・社会人とさまざまで、多様性の中的一致が一つの和音となってこだましている。

第七回

新潟・浦和・仙台

三教区合同司祭研修会

去る10月26、28日、青森県十和田町焼山のホテル海幸苑で、三教区合同司祭研修会が開催された。

今回の大会は、「みことばに生きる私たちの祈りと実践」というテーマのもとに、三教区から、長江恵・伊藤庄治郎・佐藤千敬各司教をはじめ、教区司祭・修道会・宣教会司祭63名が参加。

26日夕方4時30分受付開始。その日はそれぞれ旅の疲れをいやし、くつろいだ中でお互いの無事を確かめた。

27日午前中、南山大学教授・三好迪師(神言会)による講演、「神の国」があった。同師は聖書学の立場

泥棒に

御用心!!



12月7日夜、元寺小路教会内のYBU心の灯センターに泥棒が入った。ホールの窓を壊し、ドアと机をこじあげ物色したらしい。現金十数万円を盗まれたとか。責任者ジョリコール師はさすが神父様。「ドロボーさんはね、カメラも器械も切手も一杯あったのに、お金だけを盗んでいきましたね、暮れできっとお金が必要だったのでしょう。火もつけられなかったし、カメラも器械も残して行ってくれた。私は感謝で一杯です?!」ドロボーさん、今度入る時はあまり壊さないで下さいネ!

から、神の国の概念を説き明かし、「神の国は決して空間的な概念ではなく、王の概念を含み、神が王としてひとをささえ、こころをくぼる……」と聖書の箇所を引用し、聞く者に示唆を与えた。

午後は紅葉の奥入瀬・十和田湖の散歩に時間を当て、日ごろの激務を忘れ、ゆったりとした気分で紅葉と新

鮮な空気を満喫した。

28日最終日、三つの分科会には、各々かかえている問題・興味に応じて、自由な選択による参加。そして活発な話し合いがなされた。ちなみに分科会は次の通りであった。

第一分科会―「小教区の聖書研究」
話題提供者・篠原恒一師（浦和教区）。

第二分科会―「夫婦の出会いと聖書研究」
（マリッジ・エン・カウンセラー）
話題提供者・南雲正晴師 OFM（浦和）。

第三分科会―「聖霊刷新と聖書研究」
話題提供者・リユータス師 S.V.D（新潟）。

第四回 仙台教区

修道女連盟院長研修会

11月15〜17日の三日間、昨年と同じ松島の仙松閣において院長研修会が行われた。指導者は、霊的指導について造詣の深いイエズス会のネメシユ師。

修道生活における霊的指導の重要性、殊に現今その必要が強く叫ばれ



る理由、霊的生活とは何か、霊的識別とその実際、霊的指導者に要求されるもの：などについてワークシヨップの形で進められていったが、非常に興味深く、しだいに活気を帯び、三日間ではあまりに短く、まだまだ続けたい欲求があった。

又、各修道院内に、霊的指導者養成の必要を痛感させられ、そのためにも、今後各ブロック毎に自主的に集まり、研修していく気運が盛り上がり、たいへん有益な会であった。
（修女連書記寄稿）

仙台に二十年

聖パウロ女子修道会



聖パウロ女子修道会は、去る11月6日、来仙20周年を祝った。

同会は一九一五年、現代的手段を使って福音を宣教するようにと、ジヤコモ・アルベリオ神父によって北イタリアに誕生。そして、共同創立者、後の初代総長シスター・テクラ・メルロの指導のもとに、時代が要求するイニシアティブを捜しな

がら次第に成長して来た。一九二六年ローマに修道院が開かれてから、世界各国に広がりを持つようになり、第二次世界大戦の災禍もまだ生々しい一九四八年8月6日、最初の女性の宣教女が横浜港から日本の土を踏んだ。

そして、日本各地に支部修道院が開かれるようになり、当教区には、一九五七年11月6日、北仙台に最初の家を設立。現在の書院はその翌年に、修道院は5年後にできたものである。また、このたび閉鎖することになった丸光デパートのセントポール・コーナーは、みちのくにおける福音の小さな燈台として一九六九年に発足したものである。

宗教教育

指導者研修会

青森カトリック青少年教育協議会主催による第二回宗教教育指導者研修会が11月27日、本町教会（青森）を会場に開かれた。青森県内の七つの教会、二つの修道会、一つの施設、宗教教育に携わっている者25名

が集まって、熱心に研修された。

今回のテーマは、子供グループの待降節の過ごし方とクリスマスマスの祝い方、そして家庭に於ける祝い方、であった。更に、典札聖歌の指導は明の星短大の先生と音楽科の学生9名による器楽の伴奏によって、一時間七つの新曲を覚え、一同大喜び。

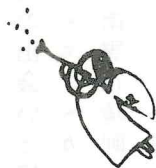
子供グループの待降節、クリスマス、そして家庭でのクリスマスについては、各教会・各場所ですpecificに行われている方法と材料が示され、細かい点までの質問が出された。

最後に、今回の研修の希望を集めて終了した。

―宮城県信徒大会―

キリスト者を求め

生活による証し強める



「キリスト者とは」のメインテーマで、仙塩地区教会代表者合同会議（小野英雄議長）主催の、本年度宮城県信徒大会が、10月30日午前9時から午後2時まで、仙台・聖ウルスラ中・高校を会場に、県内各教会から司祭・信徒・修道者ら約三百人が

参加して開かれた。

大会は開会式のあと、「教会はなにをすることでいいのか―小教区のあり方をめぐって―」の演題で、仙台教区総代理・元寺小路教会主任・土井文雄神父が講演した。この間、子供たちは幼児・小学生グループにわかれ、仙台教会学校教師の会が担当して、「いちばん大事なものはなにか」のテーマによる集いもたれた。

講演のなかで土井神父は、小教区の諸問題にふれたあと、理想を求める前にまず、「自分の所属している小教区の諸活動や諸アクションがそれぞれかかえている問題に、一人一人がキリストの司祭職と預言職にあずかる成人のキリスト者であることへの自覚をもって、生活の中にあかしをたてていかなければならない。さらに、一小教区内の活動だけでなく、近隣の小教区、また教区全体の働きにも参与し、協調していかなければならない」と強調した。

このあと、子供たちも合流して、十人の司祭による共同司式ミサが捧げられ、各教会の代表者が共同祈願のなかで、それぞれの決意を表明し

た。ミサ後、昼食会がもたれ、三分のち時間で「各教会の紹介」が行われたが、いずれも十分以上も、特色ある教会の活動報告がつついた。なお、同大会は近い将来、「教区大会」となるよう、仙塩地区教会代表者合同会議が中心となって、準備が進められている。

教区事務所の

正月休業

教区事務所では左記の期間、正月休業致します。

記

昭和52年12月29日より

昭和53年1月7日まで

なお、

昭和53年1月9日から

昭和53年1月13日まで、会計研修のため臨時休業させて頂きます。御了承下さい。

.....

仙台司教区事務所だより第13号

昭和五十二年十二月十五日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222
22
7371

